

5月10日、高知県から、南海トラフの巨大地震による津波浸水予測が公表されました。

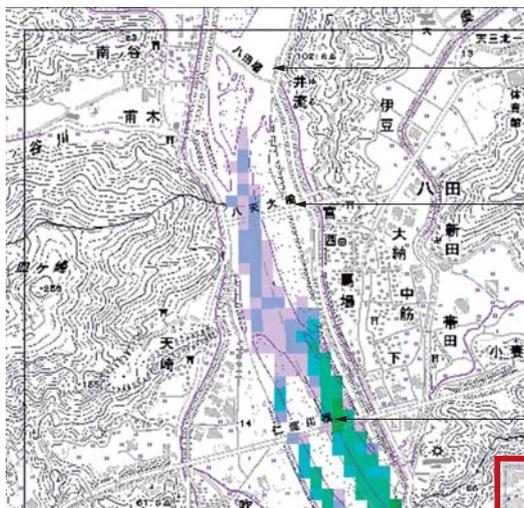
これは、内閣府が3月31日に公表した津波断層モデルによる推計結果を基に、50mメッシュ(50m×50mのマス目)で浸水域、浸水深を推計したものです。

平成17年の高知県浸水予測図では、津波による仁淀川の河川遡上が、高速道路の下流500m地点で、約50cmの水位上昇が予測されていました。

今回の予測では、八田堰の下流約300m地点まで、津波が河川遡上する予測となっています。

基本条件及び注意事項

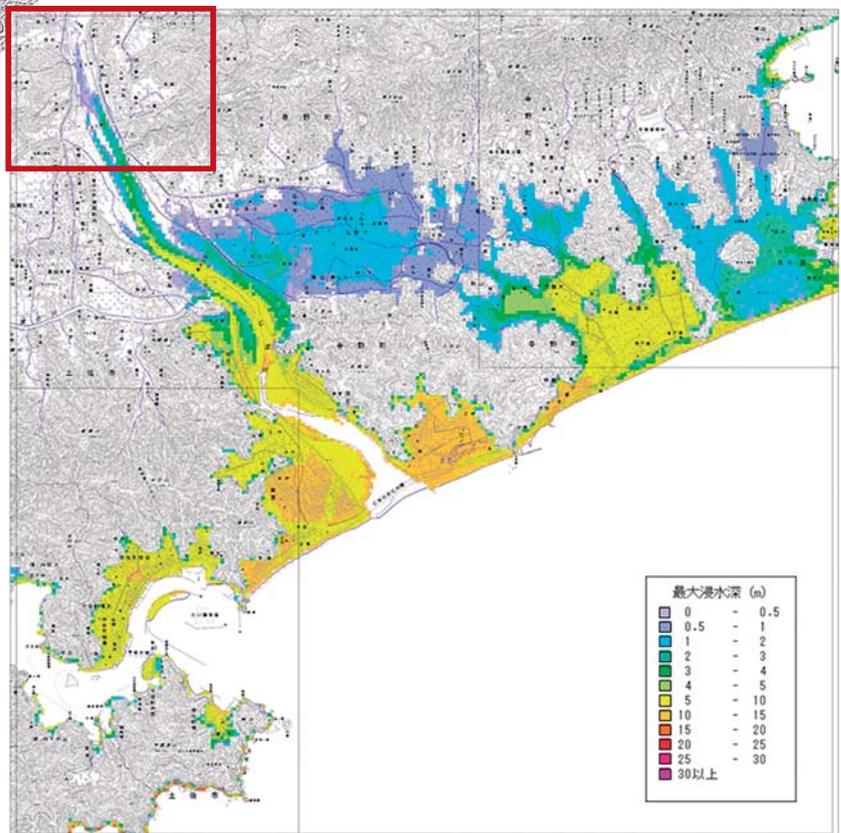
- シミュレーションに使用した地形データは、平成15年の中央防災会議で使用されたデータであり、その後の地形変化を反映できていませんので、浸水範囲が異なる場合があります。
- 津波断層モデル全11ケースのうち、高知県に極めて影響が大きい2ケースにより推計したものです。
- 海岸堤防などの最終防潮施設などはないものとして推計しています。
- 地盤の沈降を考慮していますが、隆起した場合は考慮していません。(隆起の場合は現地盤のままとしています。)
- 次に発生する南海地震の津波浸水予測ではなく、数千年に1度発生する可能性のある浸水予測図です。



八田堰

八田大橋

高速道路仁淀川橋



※高知県では、「高知県版第2弾」南海トラフの巨大地震による津波浸水予測図として、より詳細な10mメッシュ(10m×10mのマス目)の予測図を、本年秋ごろに発表する予定となっています。